

# Ruby

## Ruby 2.0

プログラミング言語 Ruby のバージョン 2.0 では、JIS X 0213 の符号化方式のひとつ EUC-JIS-2004 に対応しました。

文字コード の名前として "EUC-JIS-2004" という名前が入っています。文字コード を指定する場面でこの名前を指定すれば OK です。Ruby 2.0 では "EUC-JP-2004" となっていたが、2.1.3 で "EUC-JIS-2004" に修正されました。

Java や Python 等と異なり、内部処理用に Unicode に変換するのではなく、EUC-JIS-2004 のコード自体を直接処理することができます。Unicode との変換も可能です。

一方、過去のバージョンで使用できた Iconv クラスは 2.0 では削除されているので、これを利用して EUC-JIS-2004 や Shift JIS-2004 のテキストデータを変換することはできなくなっています。

## Ruby 1.8

Ruby 1.8 系では、マニュアルには明記されていませんが下記の要領で JIS X 0213 のコードを処理可能です。

- ・漢字コードが SJIS の場合 (起動オプション -Ks): Shift JIS-2004
- ・漢字コードが EUC の場合 (起動オプション -Ke): EUC-JIS-2004

いずれも、2面の文字も正規表現で「1文字」としてマッチします。

また、Iconv クラスによるコード変換で、Shift JISX0213、EUC-JISX0213、ISO-2022-JP-3 が扱えます (呼び出す iconv の実装、バージョンに依存します)。

ただし、NKF クラスによるコード変換は使えません。(nkf が JIS X 0213 に対応していないため)

## 関連項目

- ・ Python - 同じく Web 開発に用いられる軽量言語
- ・ PHP - 同じく Web 開発に用いられる軽量言語